



人をつなぎ 未来をつなぐ  
明石のコミュニティ・スクール

# コミコミスクスク

明石市教育委員会事務局学校教育課

いい学校はいいまちにある いいまちにはいい学校がある  
いい学校づくり=いいまちづくり  
なぜ学校がまちづくりに???????

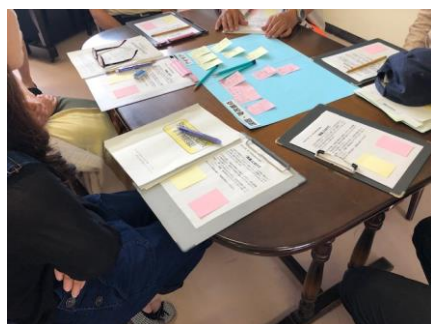
コミュニティ・スクールという学校を支援するという一方通行のイメージを持たれる方が多いのではと思います。「子どものために、学校のために」と現在でも学校は地域の皆さん、保護者の皆さんから様々な支援を受けています。では学校も地域も双方が Win-Win の関係になっているかと言えばどうでしょうか。正直なところ学校は子どもが通っていないと、立ち寄りにくい場所になっているのではないのでしょうか。学校は地域社会の中で学校資源を活かし生涯学習の拠点としてもっと人が集い、つながり、学ぶ場となってもいいのではないのでしょうか。



私がモデル校として、コミュニティ・スクールを前向きにとらえ、その可能性を考える転機となったのは、開校当初、学校が造成・建設がすすむまちの中で人が集い、人が出会い、つながっていく場となり、住人の手で活気あるまちづくりがすすめられる拠点的な役割を果たしていたことがみえてきこと、地域の方から「松が丘にはお寺もない、神社もない。昔からの人をつなぎ、人を育てる仕組みがないまち。だから人をつなぎ、人を育てる仕組みを創っていく必要がある」ということを聞いたことでした。私は松が丘小の原点はコミュニティ・スクールだったのでと考えるようになりました。そして松が丘校区のまちづくり協議会ですすめられていたまちづくりのビジョンを考える「松が丘未来会議」に出席する中で「学校づくりとまちづくりは一心同体。学校づくりとまちづくりは一緒なのは。」と考えるようになりました。そこで浮かんできたのが「いい学校はいいまちにある、いいまちにはいい学校がある。いい学校づくり=いいまちづくり」という松が丘小コミュニティ・スクールの基本理念でした。

地域社会の再生、創生といった言葉を最近よく耳にします。今後より一層テクノロジーが進歩し、ネット社会が進むと、自分が住んでいる“地域社会”を意識する人は減っていき、「人は住んでいるがつながりはない」といった状況が一層進んでいくことが予想されます。人生 100 年時代を迎え、地縁・血縁的なつながりだけでなく、趣味等を通じてのつながりなど新たなつながりを生み出す仕組みが必要になってきます。また、学校も「同じ校舎で、同学年の子どもが同じ教室に一齐に集まって同じ内容を勉強する」という今の学校のあり方がいつまでも続くとは考えられません。しかし、社会が変化し、子どもたちの学び方も変化するとしても新たな学びの場としての学校は必要であり、子どもが成長していくためには地域社会は必要です。

コミュニティ・スクールづくりを進めるにあたり、少し大げさですが、次なる 100 年に向けて、



地域社会を支え、新たな地域社会を創生していく子どもたちを育てるために、“地域社会総がかりで子どもたちを育てていく仕組みづくり=持続可能なまちを育てていく仕組みづくりになる”という視点を持つことも必要だと考えます。

試しに一度これまでの学校にとらわれず、新たな学校のあり方について熟議を試してみるのはいかがでしょうか。学校を取り巻くさまざまな硬直した仕組みを変えていくきっかけになるかもしれません。(文責コミュニティ・スクールコーディネーター 北本)